

中心商店街の入口に親子交流施設を設置
もう一方の入口には高齢者等交流施設を設置し、中心商店街の回遊性を高める

山口市本町商店街振興組合

(NPO法人山口せわやきネットワーク)

機関名	山口市本町商店街振興組合 (NPO法人山口せわやきネットワーク)			
所在地	山口市本町2-1-2 (山口市本町2-1-3)			
電話番号	083-925-0934 (083-921-0428)			
地域概要	(1)管内人口	143千人	(2)管内商店街数	9商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	23商店
	(3)空店舗率	6.1%	(4)大型店空き店舗数	1店
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業 (親子交流施設)

- ・子育て中の親子が気軽に立ち寄れるコミュニティ施設の設置・運営
- 総事業費 3,228千円

【事業実施内容】

1. 背景

本町商店街振興組合 (商店街の通称は「西門前商店街」、以下「西門前商店街」という。) は、JR 山口駅の北方約 500mの米屋町商店街の西側に隣接し、街路の延長は約 100メートルで、全蓋アーケードならびにカラー舗装を設置し、山口県の県都・山口の中心商店街を構成してきた (中市、大市、米屋町、道場門前、西門前、新町、駅通りの7つ)。

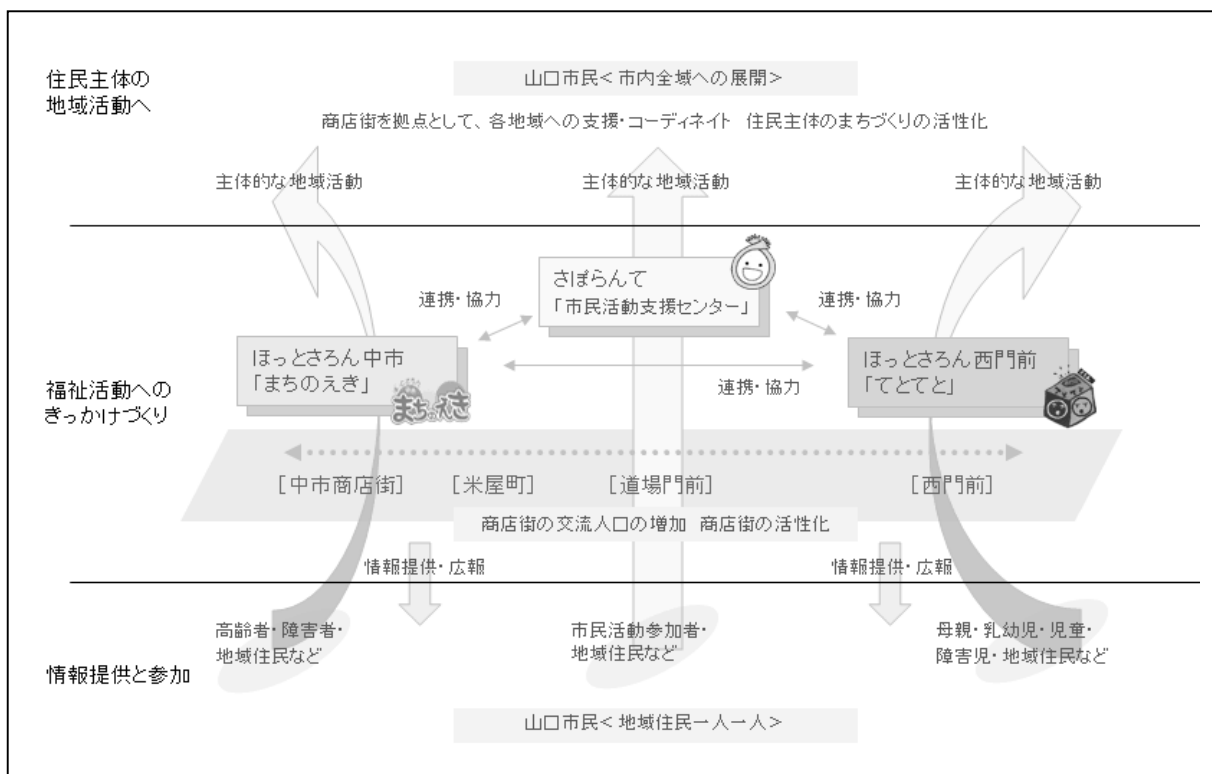
今回の取り組みは、「福祉のまちづくりから福祉でまちづくり」をテーマにした山口モデルの提案に基づき、商店街を拠点とした地域への支援・コーディネート及び住民主体の街づくりを図ることを目的に、西の入り口付近の西門前商店街に、母親、乳幼児、児童、障がい児、地域住民のためのほっとさろん「てとてと」を設置することとした。また、同時に、別事業として、中市商店街のアーケードの東の入り口付近に、高齢者、障がい者、地域住民などが休憩・交流できる「まちのえき」を設置することとした。(370ページを参照。)

中心商店街の東西の入り口付近にコミュニティ施設を設置し、さらに、中ほどに位置する市民活動支援センター「さぼらんて」と連携を図り、全体の来街者数の増加と回遊性を高めることを狙いとした。

各施設の位置関係並びに山口モデル提案図は次のとおりである。



ほっとさろん西門前「てとてと」の位置（山口商工会議所 HP より加筆）



「福祉のまちづくりから福祉でまちづくりへ」山口モデル提案図（「てとてと」HP より）

2. 事業内容

主に乳幼児（0～3歳）を持つ親とその子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い交流できる場や、ボランティアによる育児相談などの場を、商店街の空き店舗を活用して身近な地域に設置することで、子育て中の親の子育てへの負担感の緩和を図り、安心して子育てができる環境を整備することにより、地域の子育ての支援機能の充実、並びに商店街のにぎわいの創出を図ることを目的とした。



「てとてと」正面

- ・ 設置場所：西門前商店街内（山口市本町2-1-3）
- ・ 開館時間：10:00～15:00
- ・ 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、お盆を除く毎日
- ・ 事業主体：NPO法人「山口せわやきネットワーク」、本町商店街振興組合
- ・ 実施体制：ほっとさろん西門前「てとてと」に専門職員を配置して事業を実施。また、運営委員会（利用者、NPO、商店街、TMOである株式会社まちづくり山口、専門家、行政等の12名で構成。）を組織し、各委員の意識の共有を図り、事業に反映した。

（1）施設運営管理

入館者数

月	入館者数	月	入館者数
7月	583人	12月	730人
8月	519人	1月	866人
9月	908人	2月	989人
10月	1,192人	3月	1,029人
11月	911人	計	7,817人

（2）オープニングイベントの開催

- ①開催日時 平成15年7月12日（土） 10:00～15:00
- ②参加者数 約500名（オープニングセレモニー約300名）
- ③内 容
 - ・ オープニングセレモニー
 - ・ ワークショップ：壁面アート等
 - ・ ふるまい：カブトムシ・クワガタ配布、そうめん流し、白玉団子
 - ・ フリーマーケット等

（3）広報事業

オープニングイベント開催における広告を地方紙に掲載、リーフレット作成（5,000部）、ポスター作成（1,000部）

（4）厚生労働省委託事業・市委託事業集

①つどいの広場事業

地域の子育て家庭の親とその子どもが気軽にかつ自由に利用したいときに利用で

きる場を提供した。

【おもちゃ 56 種類、絵本 215 冊、紙芝居 10 冊を整備、約 414 家族が利用】

・利用者のためのミニプログラム(自由参加、毎回 10 名前後が参加)を開催。【計 93 回】

月(午前):ちいさなちいさなおはなし会(幼児向けの絵本の読み聞かせの会)【28 回】

月(午後):手作りおもちゃの会(てとと用のおもちゃを作る会)【25 回】

火(午後):はたけの会(裏の畑で農作業をする会)【20 回】

水(昼頃):水遊びの会(プール、夏季のみ)【5 回】

隔週木:おさんぽの会(てと号で近隣の公園・施設へピクニック)【10 回】

第 3 木:うちの子サイズ(有資格者によるお手伝いつき身体測定会)【5 回】

②子育てママ交流事業

子育て中のママが心的疲労を解消するためのママ同士の交流サロンを開催【9 回】

(月 1 回・参加費 500 円・講座は外部に会場を借りて、託児は本施設内で行った)

	開催日	内容	講師	参加者数 (託児)
第 1 回	7/25	グループカウンセリング	藤田久美(県立大講師)	9 名(12 名)
第 2 回	8/29	『ち・お』を読む会	井出崎小百合(スタッフ)	6 名(9 名)
第 3 回	9/26	グループカウンセリング	藤田久美(県立大講師)	10 名(9 名)
第 4 回	10/24	元気になる歌広場	工藤三千代(スタッフ)	13 名(16 名)
第 5 回	11/28	グループカウンセリング	藤田久美(県立大講師)	10 名(8 名)
第 6 回	12/12	『ち・お』を読む会	井出崎小百合(スタッフ)	6 名(9 名)
第 7 回	1/23	グループカウンセリング	藤田久美(県立大講師)	4 名(5 名)
第 8 回	2/20	元気になる歌広場	工藤三千代(スタッフ)	15 名(11 名)
第 9 回	3/4	グループカウンセリング	藤田久美(県立大講師)	6 名(8 名)
計				79 名(87 名)

自主保育を行うグループを作り、運営をサポートした【3 グループ 15 家族が活動】

③子育て関連情報収集・提供事業

子育てに関する情報(子育てへの意識啓発や悩み解決につながるもの・子育てに関するイベントや講座の情報、子育て支援に関するもの、市内の子育てグループ情報等)を収集し、提供した。

・広報誌の発行(月 1 回、1,000 部)

・HP の管理運営(<http://wteto2nelp>)、掲示板の活用(譲り合い掲示板、ポスター等の掲示)

・チラシの収集・提供、閲覧用パソコンの設置、子育て関連図書の貸し出し 等

④子育て相談事業

子育てに関する不安や疑問をもつ子育て中のお母さんに対する相談・支援を行った。【93 件】

・(再掲)身長体重測定会「うちの子サイズ」【計 5 回 47 名が参加】

・相談対応のための資料作成

⑤子育て支援者養成講座事業

子育てに関心がある者や広場の利用者など、将来子育て支援に関わるスタッフとして活動する事を希望する者を対象として、子育て及び子育て支援に関する講習を行った。【計 9 回(88 名)】

⑥一時預かり事業

商店街での買い物を楽しんでもらうなど、子育てママが精神的なゆとりを得てリフレッシュを図るため、2 時間程度のレスパイトサービスを行う。 【計 25 件 32 人が利用】

(5) 商店街事業との連携

①組合・青年部への加入・各会合や作業への出席

理事会出席(事業説明)、グループインタビュー参加、おかみさん会新年会参加、青年部会議出席、エコステーション当番(毎週水曜日)、古紙回収日作業協力(月 2 回)

②イベント時の特別開所・イベントへの参加

祇園まつり(7/20, 24, 27 夜間)、ちょうちんまつり(8/6, 7 夜間)、ハッピーロードウェディング(11/9)、山口天神祭(11/23)、一店一品運動(3/20)、桜まつり(3/27)

③広報面での相互協力

本施設が発行する広報誌で本町商店街店舗を順次紹介【計 10 店舗】

④商店街より花壇および苗の提供

【 効 果 】

1. 来街者の行動

商店街利用者へのアンケート調査によると、コミュニティ施設の利用経験者の中で 3 割の人が商店街の利用に関して「変化があり」としており、約 5 割の方がコミュニティ施設に期待している。

一方、商店街関係者へのアンケート調査によると、約 4 割の商店主がコミュニティ施設による商店街の変化を感じており、「子ども連れの若いお母さんを多く見るようになった」「子どもの声がし、にぎやかになった」「買い物客も少しずつ増えている」などとなっている。また、6 割の商店主が「交流人口の増加」、「情報発信」をコミュニティ施設に期待している。

平成 15 年度通行量調査(平成 15 年度' 山口市商店街通行量 調査報告書: 山口商工会議所)によると、平日の通行量は商店街の 12 地点すべてで減少しており、本施設付近の「西門前・旧 KS クラブ前」でも前年比 11.3%減となっている。しかし、そのうち自転車通行者を除いた歩行者の状況を見ると、12 地点中唯一「西門前・旧 KS クラブ前」で前年を越え、7.1%増となっている。

2. 商店街との連携

商店街との連携については、本施設からの一方的なものではなく、商店街側からの提案や協力もあることから、これからさらに連携を深めていける可能性は高い。各商店主にも、商店街が地域やコミュニティに貢献していくためには、小売機能だけでなく、本施設のようなコミュニティ施設の機能も必要であるという意識が育っている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 施設運営の改善

以下の点で施設運営の改善が必要である。

(1) スペースの確保

予想以上に来所者数があったため、スペースに限界があった。親子が安全に過ごすためにも、翌年度は外庭を整備し、スペースの拡大を図る。

(2) 相談件数

(1)と同様の理由で、相談環境が整わず相談件数が少なかった。翌年度は相談日を設け、専門家を配置して対応する。

(3) 駐車場代

来所者やボランティアが負担している駐車場代の問題。

(4) 次世代支援者の育成

来所者を次の世代の支援者として育成していくことが重要。翌年度は単なるボランティアにとどまらず、準スタッフとして多くの事業に来所者の参画を図る。

2. 商店街との連携

商店主の本施設に対する期待は高いが、本施設と商店街関係者との相互理解がまだまだできていない点が課題である。商店街活性化のためには本施設と商店街の連携が必要であるが、商店街関係者に本施設の事業目的や事業内容を理解いただき、本施設と商店街が連携する上で、「できること」「できないこと」の整理が必要である。そして、商店街関係者が主体的に関わる仕組みづくりが必要となってくる。

3. 事業費の確保

補助期間終了後の運営費が課題となってくるが、自主収入を研究していき、様々な委託事業や補助事業を検討していく。

4. PR

事業評価アンケートによると本施設の認知度は5割程度であるが、事業内容を理解している方はまだまだ少ない。翌年度は広報活動の見直しをし、さらなる情報発信をしていきたい。

【 関 連 U R L 】

ほっとさろん西門前「てとてと」 <http://www.teto2.jp/>

山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 <http://2style.jp/saporant/>

ほっとさろん中市「まちのえき」 <http://www.c-able.ne.jp/~matinoek/>